# 各界で活躍されている卒業生から

NAGAI Manabu

ANAMIZU Kosuke

FURUYA Momoka

OTA Shusuke

©ALBIREX NIIGATA

Graduate Message

参議院議員

# 永井 学

NAGAI Manabu

高45回生
1974年5月7日生まれ。
國學院大學法学部卒。株式会社エフエム富士、衆議院議員秘書などを経て、2011年山梨県議会議員。以後3期連続当選。2022年参議院議員に初当選。

## 世の幸と国の栄えに尽くさなん高い理想をもって

「世の幸と国の栄えに尽くさなん高き理想よ」1993年3月の卒業式、最後の校歌を斉唱しながら、このフレーズ噛みしめ「いつか人の役にたつ仕事がしたい。」と考えていました。私の政治の原点は、間違いなく甲府西高で過ごした3年間にあります。

高校に入学して、すぐに生徒会副会長になりました。そして、高校2年の時には生徒会長を拝命。この時は数年ぶりに生徒会長選挙が行われ、なんとか当選。「誰かに想いを託され、それを形にしていく」とてもやり甲斐のある仕事でした。原付バイク免許取得の件や、アルバイトの件など生徒総会では異例の長時間審議をしたことも今となっては良い思い出です。当時の生徒会のメンバーが親身になって、そんな私を支えてくれました。決して一人では為し得なかったことばかりです。仲間の大切さ、想いを形にするということの尊さを、甲府西高で勉強させて頂きました。

大学に進み法律を勉強する傍ら、当時、衆議院議員だった横内正明先生の事務所でアルバイトする機会を得ます。いつかは自分もこんなところで「世の幸と国の栄え」のために働いてみたい。と思っていました。大学卒業後、ラジオ局、政治家の秘書などを経験して、山梨県議会議員へ。そして遂に2022年7月参議院議員に初当選させていただきました。当選は入り口であり、まだ道半ばではありますが、胸に「志」を持ち続け、高校時代に描いた夢を叶えることができた自分は本当に幸せ者だと思っています。

後輩の皆さんへ。今は人に笑われるような夢でも想い続けてください。想い続けなければ夢は叶いません。例えそこに至らなくても、諦めず前に進んできた時間はきっと皆さんのこれからを助ける大きな力となります。私も皆さんに負けないよう、これからも「世の幸と国の栄え」のため、国のど真ん中で精一杯働いてまいります。甲府西高で過ごしたあの時間を胸に。

生徒会役員で1枚

サウンドデザイナー

# 穴水 康祐

ANAMIZU Kosuke

高50回生
1979年8月28日生まれ。
2020年に携わった東京造形大学のBRAND CONCEPT MOVIEは世界三大デザイン賞のひとつレッド・ドット・デザイン賞2022を受賞。現在は、映像や映画のための楽曲制作、アート作品や空間のためのサウンドデザイナーとして活動している。

## 楽な方より楽しい方へ

日々勉学に勤しんだ我が母校から、こういったお話をいただけるなんて光栄です！と引き受けてしまったけれども、いざ締め切り直前に慌てて書き始めてみたものの、全くまとまらない。自分の気持ちをかっこよくドン！と表明したいが、言葉にした途端に肝心なことがこぼれ落ちて、心の中にあった状態から解像度が下がってしまう。自分のテクニック不足ともいえるが言葉のプロじゃないし頑張りたくない。だけどかっこいいことが言いたくなっちゃうという自分のタチの悪さに苦しめられている。「で、何が言いたいの？」という話だが、文字数を稼ぐために遠回りをしてしまいました、ごめんなさい。

なんとかある程度文字数を稼げたところで、だから音楽に夢中になっているのかなぁと思った。曖昧でボンヤリとしているけれども、はっきりくっきりとある〝何か〟を取り扱えるというか、曖昧のままで良いというか、「曖昧にしておくことにこそ意味があるんだぜ」みたいな良い加減な感じ、言葉にできない・したくないこと、理屈が入ってこられない領域こそが主戦場みたいなところが、自分には居心地が良いんだろうなぁと思う。正解も不正解も、基本的にはないところにも惹かれている。教養があろうがなかろうが、音痴であろうがなかろうが、それは其々の性質の話であって、音痴だからこそ活きる音楽もあるし、磨き上げた技術があるからこそ輝く音楽もあるし、そもそも聴く人の心の状態で聴こえ方は変わってしまう。これが正解です！なんてものはなく、それが難しいところでもあるのだが、だからこそ楽しい。学校はある意味で正しさを教える所だと思うが、時代や状況や境遇で移ろってしまう正しさよりも、もっと色んな楽しさを伝授してくれる所になったら良いなぁと、正しさよりも楽しさを選んだものの未だにフワフワと生きながらえている人間がそう思ったところで、目標文字数達成。楽な道より楽しい道を選んで生きていきたい。ご清聴ありがとうございました！

「当時の気の合う仲間と」
～部活や音楽、自分の好きなことに夢中でした～

文部科学省高等教育局私学部
私学行政課専門官

# 古屋 桃香

FURUYA Momoka

高61回生
平成3年3月生まれの33歳。甲州市立塩山中でハンドボールに打ち込んだ後、医学部を目指すために甲府西高に進学。数学が大の苦手で医学部は断念。高校卒業後は、お茶の水女子大学、同大学院に進学し、心理学を専攻。大学院博士前期課程を修了後、平成27年4月に文部科学省に入省。現在は文部科学省高等教育局私学部私学行政課において、私立学校法の改正をはじめ、学校法人の組織・管理運営に関する政策立案に従事。一番好きな果物は桃。

## 西高から自分の目指す世界へ

皆さんこんにちは。平成20年度卒業生の古屋桃香と申します。このたび、甲府西高校が創立120年を迎えたとのこと、大変おめでとうございます。貴重な機会を頂戴しまして、誠にありがとうございます。

私は、甲州市塩山に生まれ育ち、ネクタイの制服と電車通学に憧れ、片道40分をかけて西高に通いました。西高では、切磋琢磨できる仲間や自分の本気と向き合ってくれる素敵な先生との出会いに恵まれ、勉強に部活に、全力投球の3年間を過ごすことができました。

西高時代の私は、とにかく希望の大学に「入る」ことを目標に、毎日の授業や課題に取り組み、模試の結果に一喜一憂していたのですが、今となっては「何をそんなに気にしていたのだろう?」と思います。大学は、一つの通過点。「入る」ことがゴールではありません。今、西高で学んでいる皆さんには、この先の人生で何を学んで、どんな人になりたいか、何をして生きていきたいか、それをとことん考えて過ごしてもらいたいと思います。

私は、「子どもたちが生きていく社会が、今よりいいものであってほしい。生まれてよかったなと思える社会であってほしい。」と強く思ったことをきっかけに、文部科学省の門をたたきました。入省してから今に至るまで、その志は変わっていません。

学習指導要領の前文に、こんな一文があります。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人ひとりの児童・生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

私は、この一文を読むたびに、泣きたくなるような、それでいて気合が入るような、不思議な気持ちになります。これは、未来を担う皆さんへの切実な願いです。西高から、自分の目指す世界へ、どうか力強く羽ばたいてください。陰ながら応援しています。

妹の入学式の朝自宅にて
2人一緒に電車で通学することも多くありました

高校入学時に両親からのプレゼント
大学受験もこの時計とともに乗り切りました

プロサッカー選手

# 太田 修介

OTA Shusuke

高66回生
1996年2月23日生まれ。
職業：プロサッカー選手
池田小学校→甲府西中学校→甲府西高校→日本体育大学→ヴァンフォーレ甲府→FC町田ゼルビア→アルビレックス新潟

## 思い出

甲府西高等学校、120周年おめでとうございます。卒業して10年が経った今、西高で過ごした日々を思い返す機会を与えて頂き感謝しています。

私は西高に通いながらヴァンフォーレ甲府のユースチームでサッカーをしていました。当時の私の生活は、学校が終わるとすぐに帰宅し、自転車で30分かけて練習場にいき、練習後に家に着くのは22時頃。それからご飯を食べ、お風呂に入り、学校の課題をやる。土日は試合、県外に遠征することも多くありました。一見、大変そうに見えるこの生活ですが、当時私は全くもって苦に思っていませんでした。なぜなら、絶対にプロサッカー選手になりたかったからです。そして、そんな私を肯定し、応援してくれた先生方が西高には沢山いてくれたことも理由の一つでした。私の体調を気遣ってくれたり、試合の結果を気にしてくれていました。また、県内で行われる試合だけでなく、県外の試合にもわざわざ応援に駆け付けてくれたこともありました。校外の活動に対してもこれだけ応援してくれていたので、校内の部活に入っていなくても孤独を感じる事がなく、私は私で認めてもらえているという安心感があり、より一層頑張ることができていました。

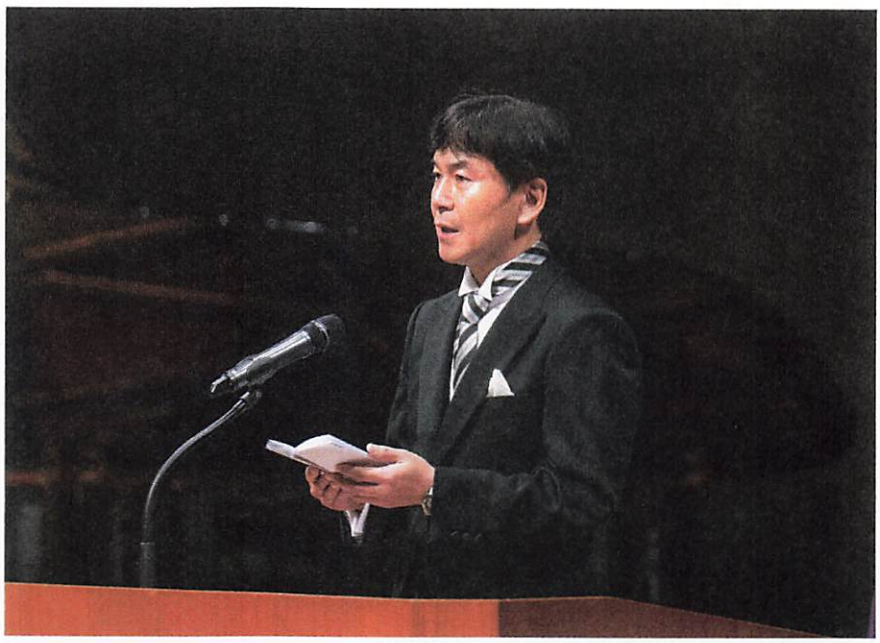
結果的に高校卒業後にプロになることは出来ずに日本体育大学に進学することになりましたが、その際もサッカー推薦により8月に合格するという当時の西高では、あまり前例のない事例にも関わらず、先生方は喜び応援してくれました。大学卒業後、プロサッカー選手になることができたのですが、卒業して10年経つ今でも、試合の結果を追い、応援してくれていて連絡をくださる先生もいます。先生と生徒という域を越えてサポートしてくれる先生方がいたからこそ、今の自分があると思っています。

今はJ1リーグでプレーしていますが、更に飛躍してお世話になったこの西高をさらに輝かせるために日々努力を重ねていきたいと思っています。

# 創立120周年記念式典

令和5年10月5日(木)にYCC県民文化ホール大ホールにおいて、創立120周年記念式典が挙行されました。

記念式典は厳粛な雰囲気の中、来賓の皆様による祝辞、また、長年にわたり本校の発展に貢献された方々への感謝状の贈呈などが執り行われました。コロナ禍で歌うことのできなかった校歌も会場に響き渡りました。



式辞

開会宣言

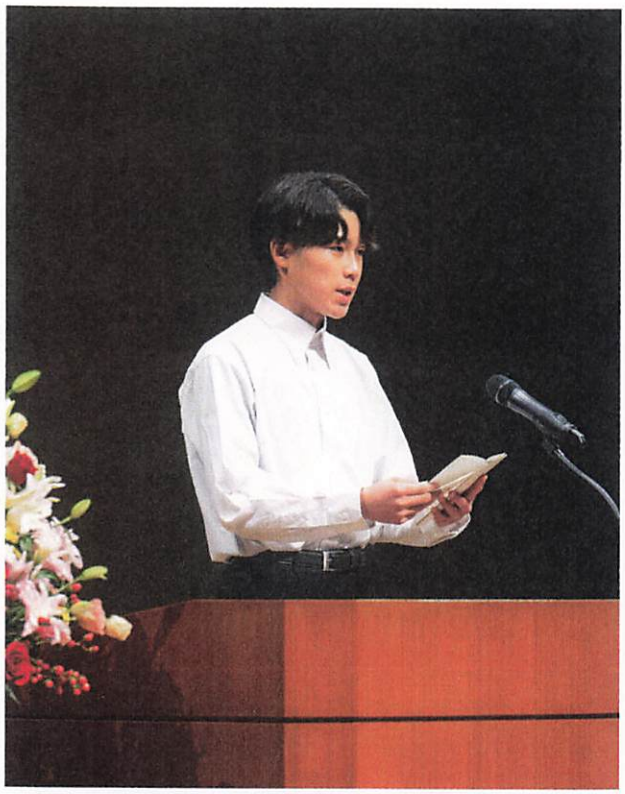
同窓会長

PTA会長

来賓・祝辞

教育振興会長

来賓・祝辞



生徒会長

感謝状贈呈

# 施設・設備環境の充実

## エアコン

令和2年3月に新型コロナ感染症が流行。感染の状況は全国に広まり、感染予防の観点から生徒が密になることを避けるため、オンライン授業やクラスを2つに分けての授業や分散登校を余儀なくされました。教室数の確保や夏の暑い時期も重なり、快適な学習環境の提供を兼ねて、選択教室3室と化学実験室にエアコンを設置しました。

また令和5年には、地球温暖化が進み、地球沸騰化がいわれる中、熱中症予防なども兼ね書道室にも設置しました。

## 自習室（ラーニングスペース）

生徒の自主的な学習のため既設の自習室が設置してありますが、南館のみであることや人数など制約もあり十分な学習環境が提供できていませんでした。そこで新たに北館にも自習室を設置しました。自習室の学習環境も従来のような個人の学習ブースでなく、オープンスペースとし、協働的な学習など多様な学習ができるよう移動式の机・椅子を設置しました。また壁や床は生徒のデザインにより張り替え、快適な環境で学習に集中できる施設です。

平日ばかりでなく、土曜日・日曜日も多くの生徒が利用しています。

## 清掃ポリッシャー

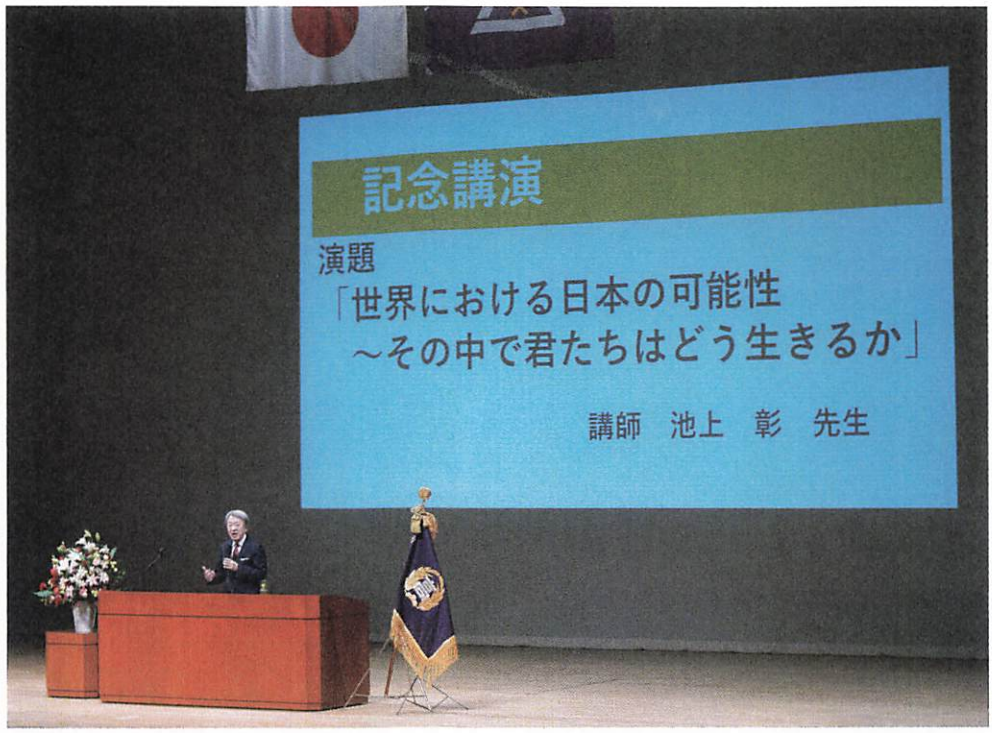
本校では、普段の清掃でも床に雑巾がけをするなど日頃から清掃活動には力を入れてよい生活環境の構築に取り組んでいます。より一層の充実および衛生対策のため清掃ポリッシャーを8機導入しました。

# 創立120周年記念講演会

令和5年10月5日（木）にYCC県民文化ホール大ホールにおいて、創立120周年記念講演会が行われました。

ジャーナリストとして活躍されている池上彰氏を講師としてお迎えし、「世界における日本の可能性～その中で君たちはどう生きるか」と題して講演をいただきました。

数多くの実体験を含む貴重なお話に、来賓の方々、同窓会員および生徒・保護者が引き込まれ、あっという間の80分でした。その後の質疑応答でも、多くの生徒から活発な質問が出て、大変有意義な講演会となりました。


記念講演
演題
「世界における日本の可能性
～その中で君たちはどう生きるか」
講師　池上　彰　先生

創立120周年記念式典会場にて（令和5年10月5日）

## 協力者一覧（敬称略、順不同）

寄稿者

古澤 夏喜　坂本 悦子　羽田 喜久枝　斉木 邦彦　永井 学　穴水 康祐　古屋 桃香
太田 修介　二木 嶺多　山本 航世

座談会参加者

小林 美佐代　石原 敬彦　手島 俊樹　高見澤 圭一　長谷川 拓　清水 美保子　姫野 爽士

資料提供・協力者等

ササモトスタジオ　サンニチ印刷

編集委員

後藤 詠一　平井 茂樹　平本 圭子　名取 美和子　柏木 洋和　横内 裕三　依田 裕子
向山 直貴　細野 ゆかり　渡邊 裕大　池田 裕子　保坂 昂祐　石井 久美

## 編集後記

甲府西高等学校創立１２０周年の記念事業の一環として記念誌を作成し、ここに発刊する運びとなりました。前回の１１０周年記念誌を参考に、今回は本校の情報誌「n・stage」と共に最近の10年の歩みを振り返ることになりました。直近の3年間は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、様々な行事が縮小あるいは中止となっていたため、記事の材料集めに苦労いたしましたが、編集作業を通して、甲府西高等学校としての１２０年という歴史の中で、その存在と歴史の重みを強く感じました。とりわけ同窓生の方々の多方面にわたる活躍や母校に寄せる愛着・期待は並大抵のものではないことに感銘を受けると同時に、この西高のさらなる発展のための責任の大きさも痛感いたしました。記念誌の内容は座談会、寄稿文、各方面の成績や校内の設備等の写真等を追加させていただきました。

終わりになりますが、発刊につきましてはお忙しい中、原稿を執筆していただきました方々をはじめ同窓会やサンニチ印刷の町田様、周りの先生方に多大なるご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。不慣れで力不足のためご期待にこたえられるようなものではないかもしれませんが、ほんのわずかでも本誌が皆様の心に残るものとなることを願い、編集後記とさせていただきます。

令和6年3月　編集委員　秋山 すみ江

発行日　令和6年3月1日
発行者　山梨県立甲府西高等学校創立１２０周年記念事業実行委員会
編　集　創立１２０周年記念誌編集委員会
印　刷　株式会社サンニチ印刷

山梨県立甲府西高等学校
創立120周年記念誌編集委員会